

世界一の商業都市であるラスベガス。まず、とんでもないところだと思った。

旅行前に宿泊するホテルを選定する段階でピラミッドの形をしたホテルで、スフィンクスまであると聞いて、そんなホテル恥ずかしくて嫌だと正直思ったのだが、実際にラスベガスという街を歩くと、そんな考えは全くなくなっていた。むしろまわりのホテルに比べて地味なのは、と思うほどで、自分の中では奇妙な感覚だった。

テレビや映画では見ていたが、街の中にニューヨークやパリを模したホテルがあったり、真夜中だろうが明け方だろうが関係なくネオンが輝いている。見ているだけでも夢中になってしまう街だった。

ただ、この街はアメリカという国だからできたこと、アメリカ人だからできたことなのではないかと思ってしまう。

日本のような狭い土地に、古くから“わびさび”を良しとしてきた日本人には到底作ることのできない街、ある種一つの世界なのではないかと思った。

